

Card Magic Library

第3巻

序文と目次

加藤英夫 著

序文

第9章では、ホフジンサーのカードマジックを学んでいただきます。

ヨハン・ネポムク・ホフジンサーは、“現代カードマジックの父”と呼ばれています。その理由は明白です。‘マクドナルドエーズ’や‘プレモニション’をはじめとして、今日傑作カードマジックと言われる多数の作品が、もとをたせばホフジンサーが考案したものであり、それは作品のみならず、‘スプレッドカル’や‘ワイルドカードチェンジ’など、重要技法についても言えることです。そして、‘ダブルバックカード’や‘デバインドカード’など、仕掛けカードについても多くを生み出しました。すなわち、現代カードマジックの基礎の大半を、ホフジンサーが1850年前後に確立したのです。

したがって、ホフジンサーのカードマジックを学ぶことは、カードマジックの発展の原点を知ることになります。そして、ホフジンサーの作品や技法や仕掛けを学ぶだけでなく、ホフジンサーがそれらの作品をどのように観客に見せてきたかを知ることが重要です。それは、作品解説中の、ホフジンサーのセリフから感じ取ることができます。

現代ではそのまま使えないとしても、毎週金曜日の夜、自宅にセレブを招いて演じた、ホフジンサーの語り口を感じることができます。ホフジンサーはいきなりマジックを始めるのではなく、一般の人々の関心のある話を切り口に始めています。そのへんをよく読み取ってください。

第9章に収録する日本語版は、1910年に発行された、オトカー・フィッシャーのドイツ語版“カルタークンステ”を英語版にした、S.H. シャープ編による、“ホフジンサーのカードマジック”（1931年刊）をもとにしたものです。英語版原著の体裁を保つため、原著部分はすべてゴシック文字で表記し、加藤の注釈は明朝文字を使用いたしました。写真は、加藤が加えました。

原著に収録されているいくつかの作品は、解説が根本的に間違っていたり、ほとんど同等のものをセリフを替えて重複して解説しているものがありますので、そのようなものは割愛させていただきました。

ホフジンサーのカードマジックを学ぶとき、あらかじめ知っておかなければならないことがいくつかあります。リストアップします。

1. ホフジンサーのカードマジックには、当時流行していた‘ピケット’というゲームに使われていた、32枚のピケットデッキが多く使われています。4つのマークの7、8、9、10、J、Q、K、Aで構成されています。52枚のデッキも使われることもありましたが。各作品解説において、どちらを使用するか書かれています。

2. ホフジンサーの使用したカードには、インデックスがありませんでした。そのことが生かされたものを今日のカードで演ずるには、やり方を修正する必要があります。解説に加えた写真は、理解しやすいように、インデックスがついた状態にしてあります。

3. 当時のカードの大きさは、現代のブリッジサイズよりも、長さも幅も約3mm小さいものでした。ホフジンサーのカードマジックの中には、デッキ全体をパームしてデッキチェンジを行うものがありますが、デッキのサイズが関係してきます。通常の手の大きさの人は、今日のポーカーサイズでそのようなマジックを行うことは困難です。

4. 解説文中に、“ここでホフジンサーはトップカードをフォースします”と書かれているにもかかわらず、原著のどこを見ても、ホフジンサーがどのようなフォースの方法を使ったかは書かれていません。しかしながら、雑誌“マジックウォンド”1932年9/10月号において、S.H. シャープが、ホフジンサーはクラシックフォースを使っていたことを指摘しています。これは、シャープがドイツ語版著者、オトカー・フィッシャーと会ったときに確認したとのことでした。

5. 解説中に、“仕掛けデッキをノーマルデッキとすり替えます”と書かれていて、その具体的な方法は説明されていません。当時はサーバントを使うことが多く、ホフジンサーも使っていたかもしれません。“右手でデッキを取り上げるときに、左手にパームしているカードを処理します”という説明もよく登場します。この場合は、体の陰でポケットに落とすのかもしれませんが。そのへんについて、原著には解説がありません。

ホフジンサーのカードマジックと対面していただくまえに、ホフジンサーの名言、「カードマジックはマジックのポエトリーである」という言葉が、どのように発せられたかを心に刻んでください。つぎの言葉は、雑誌“ジニー”2005年11月号に書かれた、マジック・クリスチャンの研究論文からの引用です。ホフジンサーから、カルロ・マルチャーニへの手紙の中の文章だそうです。

確信をもって言います。カードマジックは、マジックというアートのポエトリーです。ポエトリーなしに詩人は存在しません。カードマジックなしには、マジシャンは存在しません、たとえ彼が、魔術のように不可思議なことができたとしても。

第10章は、‘フォーオブアカインドリビレーション’を多数収録いたしました。‘フォーエースアセンブリー’のように、4枚の同数カードを演技の最初に取り出して始めるのではなく、あくまでも同数カードが不思議な方法で現れるという現象だけを集めました。4枚の同数カードを出現させるマジックが、これほど多くあるとは、執筆を始めるまえには思ってもいませんでした。

同じような現象のものを多数収録することに、一抹の不安がありました。読んでいて飽きてしまうのではないだろうか。しかし全体を編集したとき、その心配は吹き飛びました。4枚の同数カードを現すだけで、様々なタイプのものがあり、それぞれが味わいが違うのです。それだけのものが目の前にあること自体が、私には感動ものでした。日本のいままでのカードマジックの文献を見ただけでは気づかないことでした。

第1巻と第2巻を読んで面白いと思っていただいた方に、あらかじめお知らせしておきたいことがあります。これまでは、‘ダブルリフト’とか‘エルムズレイカウント’という、重要技法の極意を学ぶためのものでありました。第3巻では、そのような技法習得の喜びは感じられないかもしれません。

その代わりに、第3巻には、カードマジックが発展してきた、ヒストリカルな味わいが濃密に織り込まれています。それらを心で感じながら読んでいただければ、カードマジックを趣味とすることの喜びのクオリティが飛躍的に向上すると信じます。

私は第3巻をまとめる作業を通して、いままでにも増して、過去のカーディシャンたちの遺産を受け継ぎ、つぎの世代へ渡す仕事をしているのだと感じています。いみじくも昨日、韓国ドラマの‘ホジュン’が最終回を迎えました。“東医宝鑑”という医書をまとめた名医の話です。

私は名医でもなければ、名カーディシャンでもありません。しかしながら、いままでただ分散していたものを、体系づけてまとめることによって、新たな価値が生まれると確信しています。その気持ちはこの第3巻をもって確固たるものとなりました。

それではお待たせいたしました。カードマジックで社交界のスターとなった、ホフジンサーのカードマジックで第3巻の幕開けです。お楽しみください。

加藤 英夫

2008年12月18日

目次

序文	001
第9章 ホフジンサーのカードマジック	
S.H. シャープ序文	009
オトカー・フィッシャー前書	010
ホフジンサー経歴	011
演技に対する指針	014
Part 1 準備不要のマジック	016
シンパセティックナンバーズ	016
シノニマスソウツ・第1法	018
アソシエイションオブソウツ	023
ザフォーエイト	026
Part 2 デュプリケートカード使用のマジック	030
エヴリウェアウェアノーウェア・第1法	030
フォーエーセズ	033
余談	035
メタモフォシス オブザフライング カード	036
Part 3 ダブルフェースカード使用のマジック	038
センセーション	038
余談	040
プリディターミネーションオブソウツ	041
ソウツ	045
ザパワーオブフェイス	048
Part 4 全体をセットしたデッキを使うマジック	052
ドミネーションオブソウツ・第1法	052
Part 5 デバイデッドカードを使うマジック	057
リメンバー&フォーゲット・第1法	057

リメンバー&フォーゲット・第2法	060
リメンバー&フォーゲット・第3法	062
オムニポテンスオブザレディース	065
ザマリードハーツ	070
ザラヴィングカップル	073
ザクイーンオブハーツ	074
ミステリアスパックオブカード	077
エブリウェアノーウェア・第2法	079

Part 6 特殊な仕掛けを使うカードマジック	082
シノニマスソウツ・第2法	082
インソルブルインプロンプチュ	083
ロストストールンオアストレイドキング	085
エースオブハート	087

第10章 フォーオブアカインドリビレーション

Part 1 ビジュアルリビレーション系	091	
スリップカットスロー	091	
フォーエースアウト	加藤英夫	093
ジェニングスリビレーション	ラリー・ジェニングス	094
ポップアウトエーセズ	ピエット・フォートン	097
フィンガーパワー	加藤英夫	099
ダイレクトカット	加藤英夫	100
フォーエースラウンドアップ	マリアーノ・パリヒンハ	101
くるっとリビレーション	加藤英夫	102
ジムナスティックエーセズ	ポール・ル・ポール	103
フリーマンディスプレイ	スティーヴ・フリーマン	104
カウントダウンエーセズ	加藤英夫	106

Part 2 スペクテイターカットジエーセズ系	109	
アズアンオープナー	エドワード・マルロー	109
スペクテイターカットジエーセズ・スタンダード		110
クリーンカットエーセズ	加藤英夫	111
カッテムハイ&タイ	ビル・マローン	113
カッティングテン	デヴィッド・ソロモン	116

スペクテイターカット&ターンオーバーエーセズ	エドワード・マルロー	118
エースモンテ 2	加藤英夫	119
スベンガリストックバージョン	加藤英夫	121
Part 3 カuttingジエーセズ系		123
ハロカットエーセズ	ハリー・ローレイ	123
アズユーライクイット	ロベルト・ジョッピ	124
スリーセカンズワンダー	ゲリー・ウーレー	125
エスティメーションエーセズ	エドワード・マルロー	128
アルティメイトカuttingエーセズ		129
Part 4 スペクテイターファインズジエーセズ系		131
スペクテイターファインズジエーセズ	ニック・トロスト	131
エースでストップ	加藤英夫	132
リヴォルビングエーセズ	ハーブ・ザロウ	134
風呂田エーセズ	風呂田政利	136
スラップエーセズ	ダイ・バーノン	139
スラップエーセズ・ノーパスバージョン	加藤英夫	141
ファイナルエリミネーション	加藤英夫	142
Part 5 バーズオブアフェザー系		144
バーズオブアフェザー	ヘンリー・クリスト	144
ファイヴナインキングス	マーチン・ガードナー	145
はじめてのオープナー		146
リバティ	ロイ・ウォルトン	147
ホップステップジャンプ	加藤英夫	149
スタビングエーセズ	加藤英夫	151
プリフィギュアレーション	ラリー・ジェニングス	153
Part 6 マジシャン対ギャンブラー系		156
4枚のAを出現させ、4枚のJに変える方法		157
間違いを正す	ヘンリー・ハットン	158
アート・ライルからアンネマンへの手紙		159
マッチングザカード	ダイ・バーノン	160
バッシュフルクイーンズ	ヤコブ・ダレイ	160

2人のギャンブラー対マジシャン	ファザー・シプリアン	162
タイトルバウト	マーティン・ナツシュ	163
21世紀のギャンブラー対マジシャン	ジェイムス・スウェイン	164
バージョンX	加藤英夫	165
ミステイクリバース	ホワン・タマリッツ	166
Part 7 セルフワーキング系		169
ランダムディール	加藤英夫	169
選ばれた予言	加藤英夫	171
イージーフォーエース	加藤英夫	173
フリップオーバーミラクル	カール・ファルブズ	174
エースを見つけるカードでカットする	エドワード・マルロー	176
Part 8 キッカーエンディング系		178
四度目の正直	加藤英夫	178
じつを言うと	加藤英夫	179
メモリーパワー	加藤英夫	180
エースモンテ 1	加藤英夫	182
ダブルディーリング	ニック・トロスト	183
サッカーモンテ	加藤英夫	184
3つの予言	ボブ・ハマー	186
Part 9 マルティプルスペクテイター系		188
カトーズバリエーション	ダイ・バーノン & 加藤英夫	188
エリミネーションプリディクション	ジム・スタインメイヤー	192
ダウンアンダーフォーエース	加藤英夫	193
ナインカードミラクル	ジム・スタインメイヤー	194
シンクロナイズドエリミネーション	加藤英夫	196
Part 10 その他		198
エニナンバードプリーズ	加藤英夫	198
炭素とダイヤモンド	加藤英夫	199
エキスパートのためのエースオープナー	スチュワート・ジュダ	201
トライアンファントエーセス	加藤英夫	203
エーイズフォーエーセス	ジェームス・G・トンプソン	203

シングルエース&フォーエース	加藤英夫	204
王様のおふれ	加藤英夫	206
フォーオブアカインド	ダイ・バーノン	207
アミーバエーセズ	加藤英夫	208
インビジブルエーセズ	加藤英夫	209
アンビリーバブル	加藤英夫	211
後書		215
参考文献目録		216